

大谷學報

第七十三卷 第四号

平成六年四月三十日発行

法然の『無量寿経』観……………安藤 文雄 (1)

『起信論』の縁起説……………織田 顕祐 (21)

「内在的価値」と倫理……………渡辺 啓真 (33)

——環境倫理の場合——

〈書評〉

寺川俊昭著 『親鸞の信のダイナミックス

——往還二種回向の仏道——』書評……………石田 慶和 (47)

平成五年度 大谷学会研究発表会発表要旨…………… (52)

彙報…………… (70)

A Controversy over the Buddha-nature

in T'ang China: The Initial Debate
between Ling-jun, Shen-t'ai and

I-yung……………Robert F. Rhodes (1)

唐代における仏性についての論議(要旨)…………… (24)

大 谷 大 学

大 谷 学 会

大谷学報 第七十三卷 第二号

曾我量深における法蔵菩薩の探求……寺川 俊昭
信仰と自律……安富 信哉

——清沢満之における「修養」の位置——

盤珪の思想と民衆……前田 一郎

大谷学会 春季公開講演会 講演要旨

東と西の「笑い」の哲学……多田 稔

——夏目漱石とジョージ・メレディス——

悪党と海賊……網野 善彦

平成四年度 寄贈交換誌目録

彙報

Hieroglyphen der Schwernut

Zu Albrecht Dürers Kupferstich *Malencolia I*

……DECKE-CORNILL Albrecht

「デューラー」メレンコリア」の謎(要旨)

大谷学報 第七十三卷 第三号

大乘としての真宗の開頭……小野 蓮明

——「誓願不可思議 一実真如海」——

セクシュアリティ (sexuality)

と人間性と教育……酒井 汀

——事例を通じての考察——

『三国遺事』王曆の高句麗と新羅……鄭 早苗

『新エロイーズ』における

自然のイメージをめぐって……並木 治

戯曲『ビルリ王』について……泉 惠機

彙報

国際真宗学会第六回大会報告

THE OTANI GAKUHO

(THE JOURNAL OF
BUDDHIST STUDIES AND HUMANITIES)

CONTENTS

Articles:

Hōnen's View of the *Sūtra of Immeasurable Life*.....ANDŌ Fumio (1)

The Theory of Causality in the *Awakening
of Faith*ODA Akihiro (21)

“Intrinsic Value” and EthicsWATANABE Hiromasa (33)
—Basic Problems of Environmental Ethics—

A Controversy over the Buddha-nature in
T'ang China.....Robert F. Rhodes (1)

Book Review:

TERAKAWA Shunshō, *Dynamics of
Shinran's Faith*ISHIDA Yosikazu (47)

Résumés of Papers presented at the Otani
Society Annual Meeting 1993..... (52)

Miscellaneous:

PUBLISHED FOR THE OTANI SOCIETY
OTANI UNIVERSITY
KYOTO, JAPAN

大谷学会規程

第一条 大谷大学に大谷学会を置く。

第二条 本会は真宗学・仏教学・哲学・社会学・史学・文学・国際文化学、その他の学術研究と発表をおこなうことを目的とする。

第三条 本会は前条の目的を達成するため、左の事業をおこなう。

- 一、季刊「大谷学報」の発行
- 二、「大谷大学研究年報」の発行
- 三、研究会及び公開講演会の開催
- 四、その他必要なる事業

第四条 1、本会は大谷大学大学院・文学部並びに短期大学のすべての教育職員及び学生をもって会員とする。
2、前項のほか、本会の趣旨に賛同し、役員会において承認されたものは、会員とすることができる。

第五条 本会に左の役員を置く。

- 一、会長
- 二、委員
- 三、監事

第六条 会長には大谷大学学長が当り、会務を統理する。

第七条 1、委員は十名とし、教授会において互選する。

2、委員は企画・編集・出版等の会務を掌理する。

3、委員の任期は二年とする。但し再任をさまたげない。

第八条 1、監事は二名とし、教授会において互選する。任期は二年とする。

2、監事は本会の会計を監査する。

第九条 会員は本会の出版物にその研究を発表し、「大谷学報」並びに「大谷

大学研究年報」の配布を受け、本会主催の会合に出席することができる。

第一〇条 会員の会費は年額金四千元とする。但し、学生会員は貳千元とする。

第一条 1、本会の経費は会費をもってこれに当てる。
2、本会の必要経費については、助成金を受けることができる。

第二二条 本会の事務は、教務課の所管とする。

第一三条 この規程の改正には、教授会の議を経なければならない。

附則 1、この規程は昭和五十六年四月一日から施行する。

2、昭和三十七年四月一日施行の「大谷学会会則」はこれを廃止する。

3、平成五年四月一日一部改正
〈大谷学会委員〉

- | | |
|-------|---------|
| 荒井とみよ | 安藤 智信 |
| 安藤 文雄 | 加来 一丸 |
| 木場 明志 | 佐賀枝夏文 |
| 鈴木 幹雄 | 番場 寛 |
| 松村 尚子 | R・F・ローズ |

平成六年四月三十日発行

編集兼 大谷学会
発行所 藤 島 建 樹

〒六〇三 京都市北区小山上総町

大谷大学内
電話 (〇七五) 四三三―三三二(代)

振替 京都 四一八三九三番

印刷者 西 村 明

大谷大学研究年報 第四十五集

靈芝元照の浄土教……………福島光哉

——『觀經義疏』と天台浄土教——

ドリス人の侵入をめぐる二、三の問題……………新村祐一郎

『三教指帰』偽撰説の提示……………河内昭円

比較文化論への試み……………大河内了義

——ドイツ語文化圏における体験をもとに——

「国際化教育」の基底原理を求めて……………大西正倫